総務文教常任委員会会議録

（令和３年８月12日）

愛　南　町　議　会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本 日 の 会 議　　令和３年８月12日（木）
招　集　場　所　　議員協議会室

出席委員

委 員 長	石　川　秀　夫	副委員長	尾　崎　惠　一
委　　員	池　田　栄　次	委　　員	金　繁　典　子
委　　員	原　田　達　也	委　　員	那　須　芳　人
委　　員	吉　村　直　城		

欠席委員
　なし

出席委員外議員
　なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本　多　幸　雄	局長補佐	小　松　一　恵

説明のため出席した者
（防災対策課）
　課長　　守　口　庸　夫

本日の委員会に付した案件
　（１）所管事務調査（取りまとめ）
　　□本町における防災の現状と課題について
　（２）その他

　開　会　　10時40分
　閉　会　　11時30分

○尾崎副委員長　会に先立ちまして、委員長より挨拶をお願いします。

○石川委員長　昨日はお疲れさまでした。

黒潮町に行ってですね。有意義な視察が出来たんじゃないかなというふうに思っておりまして、本日取りまとめをしてですね。9月の定例議会に上程していきたいというふうに思っておりますので、皆さんの御審議をよろしくお願いいたします。

○尾崎副委員長　それでは早速本題に入ってまいります。

これよりの進行取りまとめ委員長よろしくお願いいたします。

○石川委員長　所管事務調査の取りまとめでございますが、本町における防災の現状と課題についてということで、本来でしたら、防災課長も同席の上でですね、していただきたかったんですが、今日ちょっと警報の関係等もありまして、防災課長公務多忙のためにですね、ちょっと遅れてくる可能性もありますが、ちょっと不在のまま、ちょっと進めさしていただきたいなというふうに思っております。

昨日黒潮町でのですね、地域防災計画並びにですね、防災、文化といいますか、教育含めてですね防災というのは、一つの文化である。一つのまちづくりやということで、かなり我々の愛南町と、住民のですね、意識レベルを含めてですね大分違ってたんじゃないかなという気がしてまして、その中でですね、どういうふうに進めていったほうがいいのかですね、皆さんからちょっと御意見をいただきたいなというふうに思っております。

守口課長、何か御意見がありましたら。

○守口防災対策課長　すいません。遅れて来たんで、今。

○石川委員長　取りまとめというかですね、黒潮町の実態をですね、視察をさしていただいて、その中で愛南町とのですね、違いがかなりあるんじゃないかなと。先ほどちょっと言わさしていただいたのは、地域防災計画もですね、愛南町はまだ出来てるとこはないということなので、この防災に関してですね、どういうふうに地域住民と一緒にですね、進めていったほうがいいのか、この視察を踏まえてですね、取りまとめをして、9月の本会議に、委員会報告をしたいなというふうに思っとるんですが、どういう方向性でこの視察を踏まえてですね、愛南町の進むべき道といいますか、地域住民を巻き込んだですね、計画策定を目指すのか、どういう方法がいいのかとかですね、ちょっと考えていかないといかんのじゃないかなというふうに思っとります。

で、まあその件について、防災課長の守口課長のほうからですね、御意見をいただきたいなと。

守口課長。

○守口防災対策課長　はい。地区防災計画についてなんですが、昨日の黒潮町の報告でいけば、各地域それぞれ取り組んではおるようですが、形としてこれが計画ですよというのはないということで、それぞれ各地域各自主防災会で取り組んでることが、地区の地区防災計画だというようなことをとらえてるというような、昨日の説明があったように思います。確かに、そういうやり方も、昨日聞いてあるのかなという感じはしております。で、今愛南町としては、地区防災計画としてある程度、その形があるものが必要ではないかなということで、取りあえず1か所、一地区を少し、限定っていうわけではないんですけど、取組をしております。

先週、先週も少し2時間ほど夜集まっていただいて、図上訓練等をやりながら進めていきました。そこの地域かなり、昨日の計画の中にもあったんですけど、防災散歩とか、それぞれ地域を歩いて、どこが危険だとか、そういうのを、そこの各組ごとに実施をしております。で、ある程度それで、少しもう少し集まって話ができれば、地区防災計画もできるのではないかなという気はしております。ただ確かに昨日の意見を聞いて、ちょっと考えたのは、ある程度1か所モデル的に作って、それをほかの地域にこういうふうに、ひな形じゃないです

けど出すと、それひな形でつくられると、何か、どこも同じような計画になってしまう。やっぱその、それぞれ地域の特性が出る計画ではなくなる可能性もあるので、その辺をどうしたらいいのかなっていうのは、ちょっとまだ悩んでるところではあります。

○石川委員長　池田委員。

○池田委員　昨日お話を伺った中で、地区防災計画、形としてはないっていうような、形としては。計画書としては、そんなにきちんとつくってないというお話だったですけど、1番もうあれしてるのが、ワークショップで、地図の作成、防災地図の各地区の地図の作成をして、見える化をしてから、見える化をしたら、それぞれの各個人さんの意識が変わってきたという話であったと思うんです。僕も最初、防災士の資格取るときに、つくらされるんですけど、こんなのつくってとは思うたんですけど、だけどやっぱり、見える化をするのがやっぱり1番大事だと思うんで。で、その黒潮町さんが言われたのは、防災計画としての文書はないけれどもっていうのは、この各地区の全地区61地区ですかね、各地区の防災マップが完成しとるというもうそれが、地区防災計画であると。

各地区でそれぞれに、備蓄倉庫に、自分たちが必要なものを、自主的に備蓄して、そういうことを一つ一つ、現実に出来とるので防災計画。それで防災計画ありますかって言われたときに、いやうちの防災計画は防災地図です。うちの防災計画は、この倉庫を見てくださいっていうのが、恐らく地区防災計画になるという話ではなかったかと理解したんですが、やっぱり見える化していかんと、多分、大変な大変なことだと思います。

僕らほんと講習1日受けて、地図つくるんやけど、これ大変なことで、そのときに、ちょっとそこまで踏み込んでええんかどうかわからんのですけど、わからんというか、ちょっと踏み込み過ぎかもしれんのですけど、職員地域担当制いうのが、やっぱりこれ1番重要なことで、例えば、どんなに防災地図つくってくれとか、今小学生とか学生、小学生なんかが作ってくれますよね。防災教育で防災地図をつくられて、各地区に。西海なんかはあるんですかね、小学生がつくって配ってくれたとか言うて、独居老人のとこ行くと、やられとるんですが。まあそういう、ことはしてもろもろとるんやけど。やっぱり、その自主的自主的って任してしまう。任してというか、自主防災組織があるんやけん言うて、それをあれしてしまうと、なかなかこれ大変な、取っつきが大変なことで、そこまで黒潮町のまで完全なものとはいかんにしても、例えば、もし職員の方で、担当は多分、防災課とか、保健衛生課だけでは、無理やと思いますよね。これ。もう地区防災計画をつくればいいという話が出てから、もう物すごい年月がたっとると思うんですね。で、そこら辺もまたちょっと検討してみる。また、消防団、消防団言われるけど、消防団も、ほんで自治会長さんも、仕事をもっとられるんですよね。仕事を持ちながら、そういうことをしていただいておる。ましてや、そういう事務的なこととか、そういう取りまとめとかそういうことに得手な人、不得手な人っていうのがいろいろあるんで、そこはやっぱり、事務的なこととかそういうことにたけた、というか経験のあるやっぱり現役の職員さんが無理やったら、退職された方とかを取り込んで、そういうあれをしていかんと。多分防災担当、防災、空手でっていうのは、大変んじゃないかとは思うんですがどうでしょうか。

（発言する者あり）

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　私も、池田委員のおっしゃったこと、同じことを思いました。

やっぱり、住民と行政が一緒に協働してやっぱり始めんといかん。そのためには、昨日はやっぱりその黒潮町の場合は、当時の町長が熱い思いを持って、号令をかけてみんなが熱い思いで一緒に職員の方も嫌だっていう人1人もいなかったって、今の課長さんもおっしゃられるが、その熱意が続いてるんだと思います。やっぱりその、やっぱり防災対策課6人だけでは決して出来ないことですし、ほかの職員さんの協力、それから高齢福祉課などの協力を

得るにしてもやっぱり、上からのバックアップがないと、なかなか出来ないと思うので、そこは防災課長からというよりは、この委員会として、そういう必要なバックアップが、あるんじゃないかっていうことを提言出来たらいいなとは思います。

あとやっぱり昨日、最初はすごく大変で、行政の人たち、職員の方たちが費やしたエネルギーというか時間が、最初はすごく多かったんですけども、だんだんと年月を経るうちに減っていって、その代わりその住民の意識がどんどんと芽生えて、住民が主体的に動き出すようになるというクロスするカーブのパワポを見せていただいたと思うんですけれども、やっぱり理想だなと思いました。やっぱり、行政だけでもなく、町民だけでもなく、協働して初めて、最初は行政の方大変だと思いますけど、やっぱり最終的には住民が、自分たちの命は自分たちで守るという主体性を持つように、やっぱり始めないといけないと思いました。

そのためには、やっぱ私も池田委員のおっしゃったとおり、事務的なことにたけた人、そうでない住民いらっしゃるので、昨日のね、黒潮町のロードマップなんか写真撮りましたけど、物すごいしっかりとつくって、スケジュールつくってらっしゃいました。ああいうことをできるのは、やっぱり行政関係の方だと思いますので、愛南町の場合は。そういう協力も必要だと思います。

すいません。あの池田議員とほとんど同じ意見になりましたが、以上です。

○石川委員長　原田委員。

○原田委員　はい。私もお二方と一緒のような意見なんですけど、黒潮町さん一番私興味を、興味持っていったのがですね、個別避難計画ですかね。あれがもう少しこう黒潮町進んでるのかなというふうに期待はしておったんですけど、いろいろ昨日話聞いたのに、思ったほど進展してないと。

確かに、黒潮町の話を聞くのにですね、やっぱり避難行動の要支援者、その方とやっぱりそれを支援する者ですね支援者。それを言うたら、両方のですね、意思いうか地区内でのお互いの意思の疎通なんかもやっぱりまだ出来てないと。

やっぱり実際大災害のときにはですね、その要支援者を一体誰が支援していくのか。それをまだ、はっきり決めてないような、昨日の話だったんですけど。これは非常に難しいと思います。これをいかに避難計画を立てるか。これはやっぱり行政だけではいけんので、やはり住民、どうしても、そこ主体となって取り組んでいかんといけんと思います。やはり、その行政とですね、住民との役割分担っていうのをはっきりして、その地区に、こういった方法で、やったらいいのじゃないかと。やっぱりそういった話合いを、持っていかないと、これいつまでたっても、この平行線でいくんじゃないかとそういうふうに思いました。

あくまでも、やっぱり最終的には住民が、主体となって行動をすると。それは避難所の運営についても、そのように感じました。できれば地区の住民、いうたら自主防災会で、避難所も運営をしていく。そのような方向に持っていく必要があるんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　原田委員がおっしゃられたことにちょっと、私昨日、びっくりしたというか、すごいなと思ったことがありまして、確かに今、国が努力作成義務を課しているその個別避難計画という形では、黒潮町はつくってないとは思うんですけれども、ただその最初、ずっとやってきたのが、住民一人一人の避難カルテであると。それによって要介護者、避難するその人の一人一人の避難路をつくっていったわけですよね。つくるというか、ここを逃げられますね、この道でいきましょうねということを、一人一人について確定している。これはもう実質個別避難計画のようなものだと私は思うんですけれども、それを地図上に置いていって、その上で、この地区の人は、ここにタワーをつくって逃げられない人はこ

こに行ってもらいましょう。この地区の人はこうっていうその、一人一人のカルテに基づいている避難経路に基づいて地図上に落とし込んで、そしてタワーをつくって、逃げられない人をゼロにしたっていう事をされているので、それはやっぱり物すごいことだなと。1人でも犠牲者ゼロって言ってましたけど、まさに実質的に目指して、それだけのことをやり遂げたというのは、やはりソフトから始めて、ハードにたどり着くという鉄則をされたというのはすばらしいと思いました。

○石川委員長　池田委員。

○池田委員　たびたびすいません。もう一つ、役場の組織内のことで、個別避難計画作成に当たって、要支援者、要支援者に関しては、福祉課が主体となって、やっとられるっていうことなんですが、愛南町もそういう話やったですかね。

（「はい」と言う者あり）

○池田委員　で、そのときに、町内、防災課、保健衛生課、多分建設課、も関わってくると思うんです避難関係。総務課も関わってくる。全ての組織が関わってくるし、それから外にいったときに社協とか、ケアマネジャー、もう一ついくと、具体的になっていくと、ヘルパーさん。そういう人まで関わってこんと、文書的な個別計画はできるかもしれんけど、実質的な個別計画、避難計画にはならんと思うんです。

そのときに、役場としての組織を、やっぱり会議体といいますか、そういうのをつくって、その意思の疎通をせんと、まだこれ、また始まったと思うかもしれんけど、なかなか時間をとって、そういうみんなが、集まってというか、会議してっていうのもなかなか大変ではあろうと思うけど、やっぱりそういう、やっぱ組織的なものをまずつくっていって、意思の疎通をせんと、多分それやると目からうろこで、専門家、専門家。知らん者は知っとる者の何分の１も知らんというようなもんで、目からうろこっていう。逆に今度専門家にして、専門職、専門でしよる人にとっては、そういう畑違いのとこからの意見が、またこれ目からうろこで、専門家っていうのはもうそれ一つになってしまうんで、そういう、当然自主防災会の会長さんとか、そういう自治会長さんと話もあるとは思うんやけど、まずは組織の中でそういう会議体といいますか、連絡協議会っていうのを立ち上げと、これ鶏が先か何か先かっていう話になるかもしれんけど、そういう協議会的なものを立ち上げて、それからやっていかんと、体制を整えてやっていかんと、ちょっと遠回りになるかもしれんのですけど。今やられることも大事です。うん。それは大切やと思います。やっていかんといけんと思うんやけど、ここにこれっていう、つまみ食いって言うたらちょっと語弊があるんやけど、あれしていくと、ちょっとなかなか、最終的にたどり着かないのかなあとは思います。

恐らく、市町役場内で、そういう意思の疎通をしていただくっていうか、そういうことが、大事だと思う。多分個別避難計画って、ヘルパーさんとかそういう介護の人の専門で、現場でやりよる人の声が入らんと、多分成り立たんと思います。

それと、最終的には個別避難計画の中の支援者のほうに、そういう介護の従事者が入ってこんと、恐らく現実的な計画っていう、誰が助けます、誰が助けます。近所の周りの人が助けますって言うたって、その人が仕事にいっとったりしとったら、助けれんのですよね、夜だけとは限らん、休みだけど、そういう話をしだすと、恐らくヘルパーさんが、要支援者のとこには、ヘルパーさんとか介護相談員とかいろんな人が入られると思うんで、ほやけん支援員者の中には、それがその人の、やはりその組織に入っとかんといけんのじゃないかと思います。ほんで、そういう協議会的なものも、立ち上げていかんと、なかなか難しいとは思います。

そういうことだと思います。

○石川委員長　守口課長。

○守口防災対策課長　今年度、前回からの会議でも、少し報告さしていただいたんですけど、

今年度この個別避難計画の、県のモデル事業として福浦地区で今取組みをしております。で、7月に第1回目の会議を行いました。その後、予定として、9月頃、その前に一度、このモデル事業を受け取るのが、県のモデル事業受け取るのが、愛南町、宇和島市、西予市一度そこで1回目の会議をした後、三市町の担当者等が集まって、県の職員も入って集まって、ちょっと情報交換、それぞれの取組方法を少し確認して、で、その後また、各地域で実施するということで、まあ計画を立てとる。まだ、その3市町合同での会議が、実際ちょっと今コロナの問題もあって、行われるかどうかというのが微妙なとこではあるんですけれども、その後の、その福浦の今の予定としましては、9 月ごろ再度会議を開きまして、そこで、個別避難計画のだいたいの記入の仕方というのを、少し勉強会をする予定にしております。

その後、福浦各4班に分けて、各世帯回るように今しております。これを回るのも、町の職員等が回ると、なかなか町の職員として行っても、なかなか向こうとしては、知らない人が来るということで細かい情報等聞き取り難いとこもありますので、この前の話合いでも、地元でそれをするということで福浦の役員さん、自主防の役員さん、で防災士、そして民生委員、あの前回の会議でちょっと反省点がなんで、消防団を入れるのを忘れとったんで、消防団の方でも一緒に回ってもらうということで、それぞれ全世帯回って、聞き取りをして地区防災計画をとりあえずつくるという、今のところは計画にしております。で、ある程度、その全世帯を回った後で、また全体の会議を開き、そこで、再度この人には誰が支援するかっていうのを、そこには必ず町も防災、保健福祉、高齢者支援、そして社会福祉協議会も入って協議するようにしております。特に支援者については、聞き取りですると、偏る可能性がかなりありますので、ある程度支援者は、地域全体でこの人については、近所のこの人とかいうふうに、決めていく必要があるのかなと思っております。

特に個別避難計画、特に支援者については、特に福浦については、特に津波災害を想定していますので、あまりその、実際津波警報が出た場合に、なかなか要支援者の所まで行けるかと言う問題もあるんですけど、とりあえず、地域で何名か、必ず一人ではなくて、何名かで行ける体制というのはとりたいと、今のところ考えております。

それがある程度まとまると、先ほど言うた避難経路も後で決めたいとは思ってます。で、そういうのがまとまると、その後で、できたら2月くらいに避難訓練、その呼びかけ等も含めた避難訓練も実施したいと、今のところ考えております。それとあの、各世帯を地域の人が回るということで、また福浦地区のある程度コミュニティーであったり、見守り隊であったり、いろいろ地域としてもコミュニティー的なものも、つながりができるのかと今のところ思っております。

以上です。

○石川委員長　福浦地区のモデル事業としての取組は理解をするんですが、これを120余りのですね、地区に横展開していくということを当然考えておられると思うんですけど、昨日の黒潮町のやっぱあの1番の取っかかりは、やっぱり課題の共有じゃないかなと。各地区のですね、各地区内の課題をやっぱ行政と合わせてですね、共有して、最初は要望から始まったけども、これやったら、地区のほうでできるなとかいうことになって、だんだんだんだん地区が主体的に動いたというような御意見いただいたと思うんですけども、そういう形で、先ほど池田委員も言われましたけど、これワークショップをですね、職員の担当割いかん、方法論は別にしてもですね。やっぱり住民と行政のですね、課題の共有っていうことを、各地区ごとにですね、やっていくのが1番の取っかかりじゃないかなあと。そっからどうするこうするっていう、地区の防災計画どうするこうするっていう話も出てくるんだろうと思うんですけども。まずは行政とですね地区住民のですね、課題の共有が必要なんじゃないかなあというふうに私は思っとるんですが。自転車も、最初の一漕ぎがか

なりパワーが要る。黒潮町もですね、最初１か月に２回程度、このワークショップを開いて、住民の意見を聞きながら進めていったと。途中からも、住民が主体的に動いてですね、進めていったいう計画もあるんで、まずこの、守口防災課長単独でですね職員割りをどうのこうのという話にはならないとは思うんですが、行政の中でですね、この課題をまず共有して、いかに早くですね、横展開していくかというところに、特に愛南町の場合は、雨とか水害とか、当然その津波、地震それぞれにですね、横展開する必要があるんじゃないかな、地区ごとに特性も違いますし、だから余計にですね、作業が複雑にはなるんだけども、個別の地区ごとにですね、やっぱり特性に応じた課題の共有というのを、行政と地区住民がですね、やっていくのが足がかりかなというふうに私は思ってますけど。

池田委員。

○池田委員　たびたびすいません。ワークショップ、ほて地図づくりの中で、これ多分地区に投げてしまうと、これ出来ないんです。

これね、僕ら、僕の力不足かもしれんですけどね。かなりこう、その経験いうか、講習なり何なり受けてないと、なかなかそれ、自分がやりましょうって言うたほうが、かなりの知識、知識っていうか、そういうことにあれしとかんと、ぽんと地区に投げてしまうと、それはちょっとなかなか難しいかなと思うんで、やっぱり地区だけでは、住民だけでは、最初は住民だけでは無理じゃないか。やっぱり役所が関わって、職員さんが関わっていってもらったほうが、いいんじゃないかと思います。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　今石川委員長、池田委員が言われてきたことと共通するんですけど、質問なんですが、福浦地区県のモデル地区としてプロジェクトを実施されるということですが、これがいつまでなのかっていう、いつごろまでに完成する予定か、いつごろですか。

○石川委員長　守口課長。

○守口防災対策課長　今年度。できれば２月ぐらいには、ある程度完成をさして、できれば今年度中３月末までには、ある程度各地域の代表、自主防の会長なり消防団長なり、分団長なりになると思うんですが、そういう方も集めて取りあえず福浦での取組を一度そこで説明したいなとは考えております。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　もしかしたら今の段階では、福浦地区のプロジェクトが完成した後に、ほかの地区にとお考えかもしれないんですけれども、やはり私も先ほど池田委員がおっしゃったように、その役場の組織の中で、やはり横のつながり、協力体制、連携するチームなり協議会をつくって、そこで、今、防災課が一生懸命されている福浦の事例をみんなでそこで共有して、同時にやったほうがいいと思うんです私的には。リアルタイムで、今こういう状況でこういう問題点があると、こういうふうに解決出来たっていうのを、一つずつやっぱり共有して、ほかの課の協力も、理解を得ながら、福浦地区が終わる頃に、ほかの地区にどう広げていこうかっていう話を、スムーズに移行できるのかなと思います。

で、ほかの方の連携チームをつくるとか協議会をつくるっていうことは、一つの課の課長さんが決められることではないので、もちろん、今課長がねそれやりますとか言えないのはもちろんで、委員会での提言として、そういうものを入れたほうがいいのかなと今、私は思います。

○石川委員長　原田委員。

○原田委員　今の福浦地区のモデル事業ですね、これ今年度で終わるということなんですが、それを待ってから全地区、愛南町全地区にということみたいなんですけど、災害はですね、明日来るかもわからんのですよ。ほんでまあ、せめて町内、行政区ですね各行政区、その行政区において、今現在支援しないといけない人はどれぐらいおるのか。そして、一体誰

が支援できるのか。

当然、災害時にはその近所の人、もうそれが主体となると思うんですよ。そういう方を選定する。要支援者は大体どこの家庭でどれぐらいおるのか。それぐらいはですね、もう即やっとくべきやないかなと私は思うんですよ。それをやっぱり行政がちょっと手助けして、各行政区に持っていって、なるべく早い段階で、それを決めると、各地区をやっぱり常会とかなんか、年に何回かあるでしょう。そういう席に出向いていって、実際要支援者がどれぐらいおるんかを通して、実際動いて支援できるのはどれぐらいおるのか、それだけでもやっぱりなるべく早いうちに把握しとくべきじゃないかと思うんですけどね。

それをまず、やっていくべきじゃないかと思います。

○石川委員長　あの昨日黒潮町からいただいた資料の中にですね。世帯別の津波避難行動記入シート、個別にですね、1戸1戸の多分記入になってるんじゃないかなというふうに思ってるんですけど。こういうものも、一つの見える化のデータシートとしてですね。住民の方に記入していただくような説明もしながらですね、私は横展開をすぐにでもしてですねやっていったほうが、災害は、その計画が出来てから来るんじゃないと思うんで、すぐにでもやっていかないとですね、地区防災計画が出来たから津波が来ますという形じゃなくて、災害が来てから、なかったとかあったとかっていう話になるんじゃないかなと。

特に前もちょっと言いましたけど、公助っていうのは、やっぱり災害が起きる前、準備段階、これがもう1番大事なとこで、もう災害が起きたら、もう共助と自助がですね。もう自分自ら、隣近所と一緒にですね、行動していただくっていう形にならざるを得ないし、今現実、東北大震災なんか見てもですね、そういうことだろうというふうに思ってますんで、まずやっぱ災害が起きる前にですね、何とか力を合わせてですね、そういう体制ができるようにですね、早急に取り組む必要があるんじゃないかなと。で、あの黒潮町に行ったら、こういうデータシートとか、どういう形の細かいですね、見える化のものというのはかなり持ってらっしゃるんじゃないかなと、それを参考にしながら、やっていったらいいんじゃないかなと。

逆にこの、9月の定例で、所管事務調査の報告をするわけですけど、防災課長としては、こういうふうに言うてください。こうやって行政のほうやっていきたいんですわっていう、要望等があればですね、ちょっと聞いていきたいなと思うんですけれども。

守口課長。

○守口防災対策課長　要望というと、今出ております地域職員担当制そういうのができれば、確かにスムーズに、本当にその横展開やなくて、一気にある程度進めていくっていうこともできる可能性もあるかなとは思っております。はい。

で、昨日の黒潮町でも、そういう地域の職員に対して、また研修会なりやってるっていうことなので、一気に決めて、すぐ行ってくださいっていうのも、また難しい問題があって、またその職員に対して、それは全職員になると思うんですけど、研修会なりもやっていく必要があるのかなと思っております。

ただ、私の要望というと、またその反発はかなりくらわんといかん。

○石川委員長　名前は伏せておきます。まあ、いや逆にこの総務文教委員会を利用していただいてですね。

ほぼ意見は出たと思うんですけど、1番にですね体制をとらないかんということで、職員の担当制を目指す。それと、課題の共有ということでワークショップ、カルテの作成というような方向性でまとめていきたいなとは思うんですが、いかがですか。まず第1段階としては、住民等の課題の共有ということですけど、それのためのやっぱ行政側の職員の体制も含めてですね、研修会を含めてですねやっていかないかんということでしょうから。

まず、やっぱり早くですね、そういう方向に道筋ができるように、やっていくのが1番い

いんじゃないかなというふうに思うんですが。

池田委員。

○池田委員　今やられよる福浦の事業は、事業としてきちんと進めてもらうということだと思います。

こちら一方では、体制を整えとって、ほんでそれが、早くできれば、またそれが、体制の中に入っていけるっていうことでいいんじゃないかと思います。すいません。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　今、福浦で起きていることやっていることを、ほかの地区の町民にも、できれば共有していただけることで、あっちはあんなに進みよると、もう既にね、各地区の住民の方たちの防災へのなんかやらんといけんのやないやろかという気持ちは、結構高まっているので、共有していただければ、また、うちも頑張らんといけんていう人は、意識は広がるんじゃないかなと思います。

一つ提案です。

○石川委員長　守口課長。

○守口防災対策課長　それぞれ取組み段階での報告やないですけど、広報なりとかホームページなりとか、皆さんに、今こういうことを取り組んでいますとかいう形で、またお知らせできるようにしたいと思います。

○石川委員長　ほかに御意見ありませんか。

局長なんかありませんか。いいですか。これ言うとかんといけんとか。

副委員長いいですか。

○尾崎副委員長　いいです。十分聞きました。

○石川委員長　それでは、もう１回ちょっと整理しますと、福浦の事業をまず横展開をするということと、職員の担当制についてはですね、研修会を開きながら、ワークショップを含めて、その課題の共有というのは、そのあと体制が整ってからですね進めていくと、進めていくかどうかっていうのも職員の体制をですね、まずやっぱり報告をですねして、要望していかないかんのかなというふうに思ってます。そういうまとめ方でよろしいですか。

以上御意見は。

（発言する者あり）

○石川委員長　ほかに御意見なければ、終わりたいと思いますが、ございませんか。はい。

○尾崎副委員長　意見も出て、ある程度方向性も決まりましたので、本日の会議を閉じたいと思います。御苦労さまでした。

総務文教常任委員会委員長